

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

栃木県 壬生町

自治体名： 栃木県壬生町

担当課名： 生涯学習課

電話番号： 0282-81-1872

1.自治体の基本情報

面積	61.06 km ²
人口	38,199 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	1,048 人
部活動数	27 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和 5 年度 検討委員会制定済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和 6 年 7 月 18 日 推進計画策定

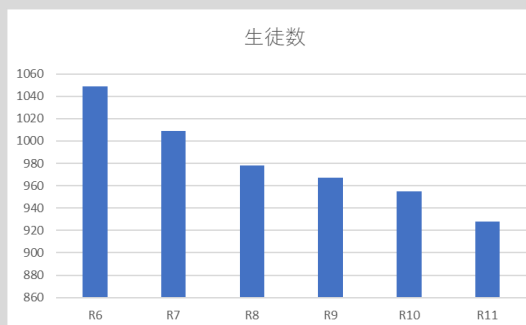
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、町には中学校が 2 校あるが、少子化の影響等で運動部活動部員数が減少傾向にあることに加えて、経験のない教員の指導に係る負担や長時間労働などで学校教師の負担も大きいことから、部活動の在り方を見直し、生徒が楽しんで活動できる場を作ったり、教員の働き方改革を推進したりする必要がある。

現在、国の指針や県の移行プランに合わせた町の体制作りが急務となっているが、包括的に受け入れ可能な団体が町内に存在しないことから、学校や生徒のニーズを把握した上で改めて地域指導者を確保する必要がある。

また、アンケートから最低限の費用負担による実施を望んでいる状況や地域移行の有無による金銭負担の不均衡の問題についても指摘を受けていることを踏まえ、保護者に理解をいただける運営体系について構築する必要がある。

壬生町内中学校生徒数の推移について



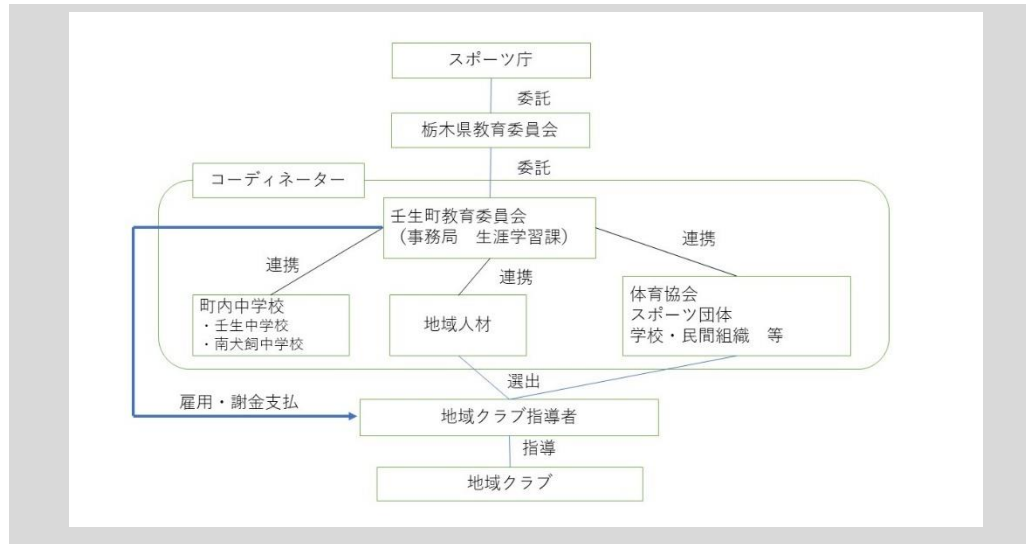
壬生町内における生徒数の推移について試算した結果は左記のグラフに記載したとおりです。なお、生徒数は今後 5 年間で 11.5% 減少することが想定されます。

※令和 6 年 4 月 1 日現在の町内児童生徒数より試算。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・全体の統括（生涯学習課）
- ・コーディネーター雇用、指導者雇用・配備（生涯学習課）
- ・学校との連携調整（生涯学習課・学校教育課）
- ・学校施設に関すること（学校教育課・生涯学習課）
- ・スポーツ団体との調整（スポーツ振興課）

◎首長部局

- ・地域クラブ活動移行の全業務を教育委員会で担当しているため、首長部局の担当課はありません。

年間の事業スケジュール

令和6年4月	コーディネーター2名を配備
令和6年4～5月	学校との実施種目調整 スポーツ団体との情報交換
令和6年7月	第1回検討委員会実施 壬生町「休日部活動」の段階的 な地域移行に係る基本方針 策定 保護者説明会(南犬飼中学校)
令和6年8月	保護者説明会(壬生中学校)
令和6年8～10月	町内中学校での実証事業開始 ・壬生中学校女子バレーボール部 ・南犬飼中学校男子バスケット ボール部 (移行期間として学校顧問との 実施内容調整を実施)
令和6年11月 ～ 令和7年1月	実証事業の実践・検証
令和7年2月	アンケート調査 実施
令和7年3月	第2回検討委員会実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校（壬生中学校・南犬飼中学校）	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		該当なし
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営 スタッフ数	会費	大会参加方法
壬生中学校	壬生町地域 クラブ（女子 バレーボール）	町直営	バレー ボール	休日 17回 (R7.1.31 までの実績)	主に土曜日 の午前中	2年生7名 1年生7名	令和6年 8月～	2人	2名	実証期 間のため 無料	中体連：部活動 その他：地域クラブ
南犬飼 中学校	壬生町地域 クラブ（男子 バスケット ボール）	町直営	バスケット ボール	休日 22回 (R7.1.31 までの実績)	主に土曜日 の午前中	2年生7名 1年生6名	令和6年 8月～	2人	2名	実証期 間のため 無料	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

取組状況

●活動概要（壬生中学校）

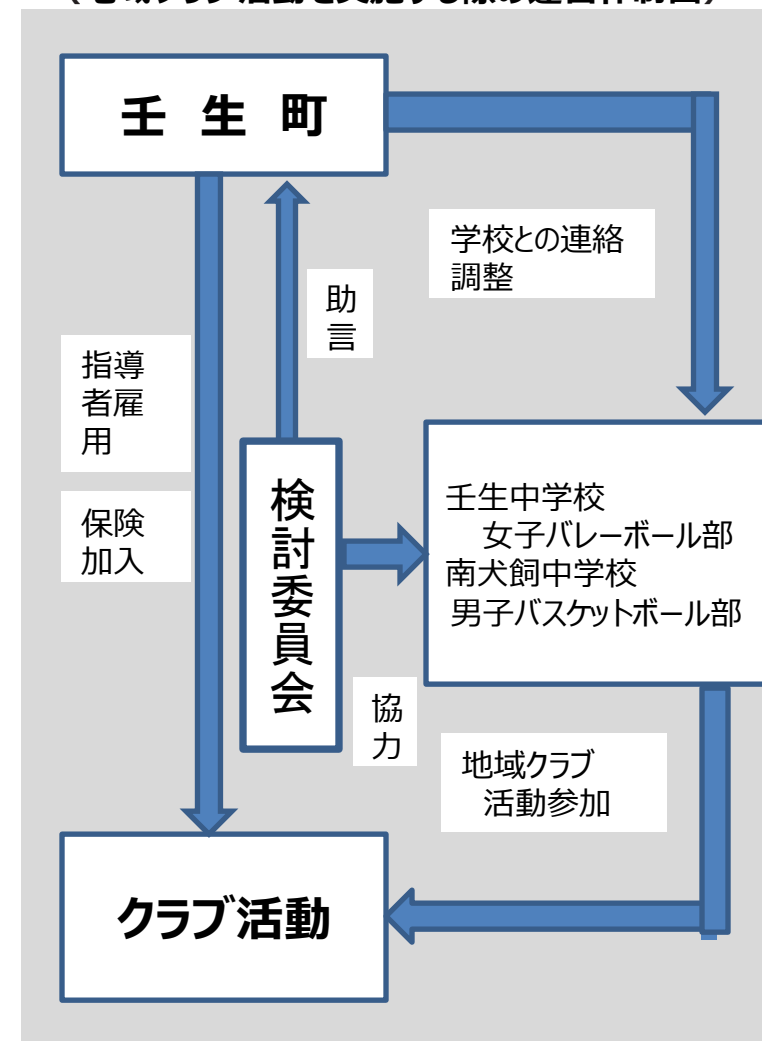
地域クラブ活動で実施した種目	女子バレーボール
指導者の主な属性	地域クラブ指導者（町で直接雇用）
運営類型	市町村運営型（地域団体・人材活用型）
活動場所	壬生中学校体育館
平均的な活動回数	月4回程度
1人あたりの参加会費等（年額）	参加費の保護者負担を行わない。 ※町で負担
保険について	・生徒 町加入の総合賠償責任保険を適用（町事業として実施のため） ・指導者 労災保険加入

●活動概要（南犬飼中学校）

地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケットボール
指導者の主な属性	地域クラブ指導者（町で直接雇用）
運営類型	市町村運営型（地域団体・人材活用型）
活動場所	南犬飼中学校体育館
平均的な活動回数	月4回程度
1人あたりの参加会費等（年額）	参加費の保護者負担を行わない。 ※町で負担
保険について	・生徒 町加入の総合賠償責任保険を適用（町事業として実施のため） ・指導者 労災保険加入

●運営体制図

（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●基本方針 町の学校部活動と同様に1種目あたり指導者を2名配備

- 壬生中学校 地域指導者2名（両名とも元外部指導者）
- 南犬飼中学校 地域指導者1名 + 学校教員（兼業申請）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

コーディネーターによる中学校・町スポーツ関係団体との連絡調整

- ・本町が運営主体となり、各中学校1部の休日の部活動を地域クラブ活動として実施した。
- ・地域クラブ指導者を町スポーツ協会や県の地域クラブ活動指導者バンクから探し出し、壬生町会計年度任用職員として任用の上、各地域クラブに配置した。
- ・地域クラブ活動保護者に地域移行の目的や学校部活動との違いを説明して理解を求めた。

取組の成果

- ・休日の学校部活動から地域クラブ活動に移行する部を決定する際、事前に学校や部活動顧問の現状を 学校長と話し合うことで、地域移行に適する部を選定することができた。
- ・町スポーツ協会から地域指導者を見つけることはできなかったが、県の地域クラブ活動指導者バンク等を通して優れた専門性と人間性をもった地域指導者を探し出すことができた。
- ・保護者への説明会を実施したことで、休日部活動の円滑な地域移行をすることができた。

特に工夫した事項

- ・学校長と地域クラブ活動について情報交換を密に行った。特に地域クラブ指導者と部員との信頼関係や顧問の兼職兼業について丁寧に協議した。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・コーディネーターが地域クラブ活動場所を訪問し、地域クラブ指導者や部顧問と定期的に面談して、地域クラブ活動の成果や課題を共有した。

今後の課題と対応方針

- ・町スポーツ協会等に、本町の地域クラブ活動の運営や地域指導者の確保について引き続き協力を依頼する。
- ・部顧問・地域クラブ指導者・部員・保護者の連絡がスムーズに取れるようICT等の方法を確立する。
- ・地域移行の際の保護者費用負担について理解の促進を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

町スポーツ協会・県地域クラブ活動指導者バンクの活用及び外部指導員への依頼

- ・女子バレーボール部、男子バスケットボール部が休日の部活動を地域クラブ活動として地域移行することに決定した後、町スポーツ協会に当該種目の地域指導者の推薦を依頼した。
- ・栃木県地域クラブ活動指導者バンクに当該種目の地域指導者の紹介を依頼した。
- ・中学校で当該種目を指導している外部指導員に、地域クラブ活動指導者としての指導を依頼した。

地域クラブ活動の地域指導者登録募集の町ホームページへの掲載

- ・壬生町は令和6年から休日の部活動を地域クラブ活動として段階的に地域移行する旨と、それに伴う地域クラブ指導者の登録募集を町ホームページに掲載した。

人材バンクの人数 及び年齢構成

部活動指導員及び県バンク登録者を中心に10名が登録。（内町バンク直接登録は1名）
年齢は全員が40歳以上で、半数が60代以上となっている。

種目および 資格有無

種目については水泳、バレー、陸上競技と幅広い登録状況。また、文化部関連の指導者（吹奏楽等）も登録あり。

全ての登録者を有資格者とするのが困難であることから、教員経験者や過去の指導実績を加味した登録を行った。

取組の成果

- ・町スポーツ協会からの当該種目の地域指導者の推薦は得られなかった。
- ・栃木県地域クラブ活動指導者バンクにバスケットボール部の地域指導者を紹介いただき、地域クラブ活動指導者として配置することができた。
- ・外部指導員として中学校でバレーボールを指導していた方に、地域クラブ活動指導者になってもらった。
- ・本町で中学校の休日部活動の段階的な地域移行が始まり、町が募集を行っていること知らせることができた。また、地域指導者として地域クラブへの参加を呼び掛けることができた。
- ・期間内に周知経由での地域クラブ指導者登録者は1名であり、町外より1件の問い合わせがあった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・採用段階で服務規程や事業に対する説明を行うとともに、体罰・ハラスメント禁止についても指導を行った。
- ・地域クラブ開始から初めの1か月間については、移行期間として部活動顧問と一緒に指導するようにした。

受講者の声

- ・採用段階で事業に対する説明を十分に行うことにより、円滑に地域クラブ活動が進められた。
- ・移行期間を設けることにより、部活動と地域クラブの指導内容のすり合わせが出来た。

今後の課題と対応方針

- ・各運動部や文化部の休日部活動を円滑に地域移行するため、各種目の地域指導者を継続して町民から募集するとともに、町スポーツ協会、町文化協会等に地域指導者の推薦を依頼していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

壬生町部活動地域移行検討委員会の開催

地域の関係団体等と連携しながら中学校の休日の部活動を段階的に地域移行するため、部活動地域移行検討委員会を開催し、成果と課題について協議し共有し合った。

取組の成果

第1回部活動地域移行検討委員会…令和6年7月18日開催

- (1) 休日の中学校部活動地域移行の全体像
- (2) 壬生町部活動地域移行の進捗状況（国庫補助の報告）
- (3) 壬生町部活動地域移行推進計画
- (4) 壬生町「休日部活動」の段階的な地域移行に係る基本方針
- (5) 令和6年度中学校部活動指導員の配置
- (6) 壬生町部活動の地域指導者(部活動指導員・地域クラブ指導者)の研修
- (7) 休日の中学校部活動地域指導者の職務・服務等について

第2回部活動地域移行検討委員会…令和7年3月17日開催

特に工夫をした点

町内2中学校長を委員長・副委員長に任命し、中学校の休日部活動の地域移行に関して、学校現場の実情を説明・理解してもらいながら、各関係団体・分野の代表者に適切な意見をもらえるようにした。

今後の課題と対応方針

今後各運動部や文化部の休日部活動を地域移行するために、町スポーツ協会、町文化協会等に地域クラブ指導者を推薦してもらえよう、検討委員会から公式に働きかける。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

町教委事業実施による費用削減

「総合賠償責任保険」の適用となるため保険料負担が不要。

アンケート及び事業結果を元にした経費試算

保護者からのアンケート調査及び事業実施結果を元にして経費試算を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

現時点では町教育委員会直営で実施することを想定していることから、設備やシステム等に関する費用負担は想定していない。

しかしながら、町全体へ展開するにあたり、民間委託による運営となる可能性もあることから、その際に必要な経費について継続して検討していきたい。

■ランニングコストの分析

現時点では、ランニングコストはコーディネーター及び指導者謝金のみであるが、全部活へ事業展開するにあたっては①指導者保険料、②専用アプリ使用料、③事務費（消耗品、登録費用等）が必要になると思われる。

収支バランス

現時点では実証事業の段階であることから全て公費負担としている。今後は受益者に対して、一部費用負担を求めるとともに、補助金を含めた資金調達について検討する必要がある。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

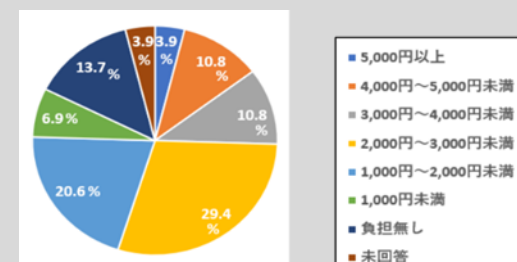
令和6年度アンケートで受益者負担について質問した結果、「1,000～2,000円」と「2,000～3,000円」の合計が半数となっていることから、受益者負担は月額2,000円～3,000円程度が妥当と思われる。

そこで、受益者負担を月額2,000円とした場合、総費用の1/2が不足となり、負担を月額3,000円としても不足額は1/3までしか圧縮されないことから、補助金や民間からの資金調達について検討する必要がある。

（町負担を1/4程度と想定）

アンケート結果抜粋（保護者対象）

問 休日の部活動が地域移行する場合、保護者の負担額（月額）はどの程度が妥当と考えますか。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- 地域クラブ活動費用を公費負担とすることで、移行種目とそれ以外の部活との公平性を保つことができた。また、既存施設等を活用費経費節減に努めた。
- アンケート実施により、当町における保護者が考える受益者負担金額を把握することが出来た。
- 1年間を通じた事業実施に伴い、人件費の費用感を把握することが出来た。しかしながら、今年度実施内容は実証事業として小規模であることから以下の点で費用負担についてより検討する必要がある。
(検討課題)
 - ・クラブ数増加によるコーディネーターの事務量増加（適正人数の検討）
 - ・事業拡大に伴う必要経費（専用アプリ使用料 等）
 - ・民間委託となった場合の経費（セキュリティ対策費用、保険料 等）

今後の課題と対応方針

- ・実施内容から収入・支出について一定の知見を得ることが出来たが、地域クラブを全部活動へ展開するにあたってより詳細な費用把握に努める必要がある。
- ・受益者負担となった場合の困窮者世帯に対する取り組みについて、先進地を参考に支援内容について検討を行っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

地域クラブ活動の活動場所に学校施設を利用

- ・地域クラブ活動の活動場所として、平日部活動を行っている学校施設（体育館等）を利用した。
- ・学校施設入口の鍵がロックナンバー式で毎月番号が変わるため、地域クラブ指導者に町教育委員会からロックナンバーを連絡して施設の施錠開錠をおこなった。
- ・地域クラブ指導者に、事前にAEDや消火器等の設置場所を示し、緊急時の対応に備えた。

取組の成果

- ・地域クラブ活動に参加する生徒が、平日の学校部活動と同じ場所で活動に取り組めるため、安心してクラブ活動が実施できた。
- ・地域移行していない部も並行し活動しているため、事故等が発生した場合でも他の部の顧問（教員）の支援を受けることが出来た。

今後の課題と対応方針

- ・地域クラブ指導者が生徒のケガの治療などで職員室や保健室等に入らなければならない時、教員が学校に他の部の顧問（教員）がいなかった場合の対応をどうすればよいかが課題である。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

● 総括

- ・地域クラブへ移行する部活動の保護者に対し町教育委員会が事業趣旨を説明することで、保護者の理解を得て円滑に地域移行することができた。一方地域移行した部活動以外の保護者に対する周知は不十分であった。
- ・地域クラブ指導者を、2校、2クラブに、4人配置できた。
4人の内1名は、兼職兼業を希望した教員のため、その場合は施設の開設・施錠を円滑に行うことができた。
- ・専門的な指導を受けることができ、部員から技能が向上したという喜びの声が聞かれた。該当の地域クラブ指導者は、以前より外部指導員としてチームに関わっていたことからコミュニケーションが取れている。一方選手たちの受け取り方には温度差はあり「厳しい」と感じる生徒もいた。別のクラブでは、「どんな活動をしたいのか」について、指導員と生徒・保護者間で共有が図れず、探り合いのような関係で半年が終わってしまった。教員以外の指導者が生徒たちの中に入って信頼関係を築くことの難しさを感じられた。
- ・従来の教員が指導を行う学校部活動から、参加費を保護者が負担（受益者負担）する地域クラブへスライドしていくことへの理解を得るための説明を行っていく必要がある。
- ・今後、全運動部の地域移行を実現するには、まだまだ課題があるように感じられる。国や県の動きを見ながら、本町の地域移行をその都度修正していく必要がある。

● 成果の評価

- ・地域移行する部活動を選定する際、町教育委員会と学校長が丁寧に協議し、顧問が競技経験・指導経験がない部に適切に地域クラブ指導者を配置することができた。
- ・地域クラブ指導者の専門性を生かした技術指導が、部員の活動に対する意欲や技術向上につながった。
・大会や練習試合で地域クラブ指導者が審判を行った結果、顧問（兼職兼業教員）が部員指導に集中できた。
- ・各地域クラブへ指導者を2名配置することで、どちらかの指導員が指導できない場合でも活動を行えた。
また、地域移行する部活動の顧問（教員）に対し学校長が丁寧に休日クラブの指導について説明することで顧問の兼職兼業許可申請が円滑になされた。
- ・地域移行する部活動の保護者に対し、地域移行の趣旨を説明会で説明し保護者の理解が得られた。
- ・地域クラブ指導者に対して、採用時及び年1回の研修会を実施し、身分・職務内容・服務、また安全管理に関する留意事項などについて研修を行い、地域クラブ指導者に適切な指導の在り方を示すことができた。
- ・コーディネーターが活動場所（学校）を訪問し、休日部活動指導員、顧問と定期的に面談をすることで、その都度問題解決を図ることができた。
- ・ウェブサイトから地域クラブ指導者の募集要項及び応募用紙にアクセスできるようにし、町外居住者を含め10名登録の人材バンクが作成できた。
- ・「部活動地域移行検討委員会」で地域移行の現状、成果と課題を示し、今後の方向性について決定できた。
- ・地域クラブの費用（人件費及び保険費用）は町負担とし学校部活動と費用負担に差が出ないようにした。
- ・地域クラブの活動場所及び施設は学校部活動と同様学校施設を利用したため、部員は違和感な参加できた。
- ・学校施設の施錠・開錠は、休日部活動指導員に鍵を預けるか、ロックナンバー式の鍵の解除ナンバーを地域クラブ指導者に連絡するかで対応した。またAEDや消火器の設置場所を事前に地域クラブ指導者に示した。

● 今後に向けて

- 2校各1部活動の休日部活動に、2名ずつの枠で指導者を配置して地域クラブ化することにより実証事業を行ってきた。しかしながら、顧問と地域クラブ指導者の指導方針等に関する共通理解が不十分であったり、休日部活動指導員の指導に対する保護者の不満が出てきたりと、問題が多く発生した。この状況で町内中学校のすべての休日部活動を地域クラブとして地域移行しようとした場合、各部に導者が確保できなかったり、保護者の費用負担に関する理解が得られなかったりすることが予想され、解決すべき課題は山積みである。それらの課題解決の具体策として、今後以下の事項に取り組む。
- ①小学6年生とその保護者に中学校入学前に「部活動地域移行」及び「保護者費用負担」についての説明会を開催する。また中学校でも保護者が集まる機会に説明会を開いて周知する。
 - ②町の広報誌やホームページに「地域移行」及び「費用負担」に関する情報を載せ、周知を図る。
 - ③ウェブサイトによる地域クラブ指導者募集を継続するとともに、町スポーツ協会への地域クラブ指導者の推薦を引き続き依頼していく。
 - ④部活動顧問・地域クラブ指導者・保護者間の連絡体制の強化としてチャットアプリの利用を促進する。
 - ⑤休日の部活動を地域移行する際、保護者に負担を依頼する場合は、公平性を保つためには、町内一斉に部活動を地域へ移行する必要がある。

2.実証内容と成果①

参考資料（活動写真）



2.実証内容と成果②

参考資料（アンケート結果・協議会資料等抜粋）

壬生町部活動地域移行検討委員会

○構成員 地域スポーツ団体代表2名、地域文化活動団体代表2名、学校関係者4名（中学校長、部活動担当教諭）
PTA代表4名（中学校・小学校PTA会長等）、元学校職員1名、教育長、教育次長
計 15名

- 検討内容
- ・部活動の地域移行に係る調査研究に関すること。
 - ・部活動の地域移行に係る仕組みづくりに関すること。

【検討委員会 資料抜粋】

資料1

国及び県の方針を踏まえた休日の中学校部活動地域移行の全体像	
「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育つ」という意識の下、持続可能な体制の構築及び環境整備に取り組んでまいります。	
学校部活動	地域移行した休日の中学校部活動
位置付け 学校教育の一環	位置付け 社会教育の一環
運営団体 学校	運営団体 R6年度は町教育委員会
実施団体 実施団体	実施団体
対象 当該校の生徒	対象 令和6年度は地域移行する部活動の部員 ◎他部活動加入生徒の参加は実施状況に応じ検討
指導者 学校教員 部活動指導員	指導者 地域指導者（部活動休日指導員） ◎教員の兼職兼務も可能
活動場所 学校施設	活動場所 学校施設 ◎地域移行の影響によって、学校外での活動も検討
活動日 平日4日、休日1日	活動日 休日1日 ◎平日は原則学校部活動
活動時間 平日2時間程度 休日3時間程度	活動時間 3時間程度
補償 災害共済給付	補償 傷害保険に別途加入 （学校教育活動外のためR6年度は町が負担）
指導者の報酬 休日のみ県費による部活動指導手当	指導者の報酬 運営団体より支払（R6年度は会計年度任用職員として町が雇用し町費負担）

資料2

壬生町部活動地域移行の進捗状況	
1 部活動指導員の配置	令和5年度より、壬生町では国庫補助事業（負担率：国1/3、町1/3、）を活用し、部活動指導員を配置している。 令和6年度は、国庫補助事業を活用し、運動部5名、文化部2名を採用している。 （実績） 主 生 中学校 … バドミントン部、剣道部、ソフトボール部、水泳部、美術部 南大綱中学校 … 女子バレーボール部、秋季実習部 ※壬生中・美術部は、指導者の都合上、短時間勤務2名で1名分の指導を実施。
2 部活動地域移行支援員（コーディネーター）と部活動休日指導員の配置	令和6年度より、国庫補助事業「地域クラブ活動への移行に向けた実証事業」を活用し、運動部の休日部活動地域移行事業を実施する。事業内容としては部活動地域移行支援員の配置を含む運営団体・実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等が挙げられる。壬生町では、令和6年度当初より部活動地域移行支援員として、会計年度任用職員2名（週3日勤務）を配置し、学校、指導者との調整を始めとした部活動地域移行の調整を行っている。 また、各中学校において1部活動あたり2名の部活動休日指導員を配置して地域移行を行った上で、今後の地域移行について検討していく。 （予定） 主 生 中学校 … 女子バレーボール部 南大綱中学校 … 男子バスケットボール部

資料3

壬生町部活動地域移行推進計画	
2023.9.25 壬生町教育委員会	
令和6（2024）年度	
1	両中学校各1部活動（2部活動）地域移行継続
2	1部活動につき、2名の地域人材（1名2.4万円×2名＝10.8万円）
3	他の希望のある部活動は、教員＋部活動指導員で休日部活動をみる
4	両中学校各1部活動（2部活動）の休日の部活動会費を町で負担 （移行前の部活動と移行後の部活動との不均衡をなくするため）
5	町生業学費減に休日の部活動地域移行支援員（町会計年度任用職員）を2名配置
6	令和7（2025）年度以降の地域移行に向けた準備 ・移行希望調査（各部活動顧問との面談） ・希望指導者調査 ・公費徴収方法の検討 ・謝金支払いの検討 ・地域指導者さがし ・スポーツクラブ、スポーツ少年団等との話し合い
7	壬生町休日部活動の段階的な地域移行に係る基本方針の策定
8	種目別、指導者バンクの設立（各専任校）
9	令和7（2025）年度の全ての移行しない部活動の部活動指導員の予算要望と入さがし
10	地域指導者と教員の指導円滑化会議の創設
令和7（2025）年度	
1	両中学校各1部活動（2部活動）地域移行継続
2	他の部活動は、できるだけ部活動指導員を活用して休日の部活動を実施 部活動指導員を希望しない部活動は顧問が休日もする ※ 部活動指導員を多くの希望する部活動に配置することで、いつでも地域移行可 ※ 部活動指導員は、平日も指導可能 ※ 部活動指導員を多く活用することで、保護者の会費負担を大幅におさえられる
3	
4	種目別、指導者バンクの充実
5	部活動指導員の紹介、斡旋と部活動指導員の予算取り準備
6	地域指導者と教員の指導円滑化会議の実施（年間1回予定）
令和8（2026）年度以降	
1	国の補助金を確認し、保護者が支払う会費負担への補助等が確認され次第、全ての休日部活動について一斉に地域移行をすすめる
2	地域指導者、生徒、教職員のすべてが確りして生徒にとって最高の指導環境づくりをめざす

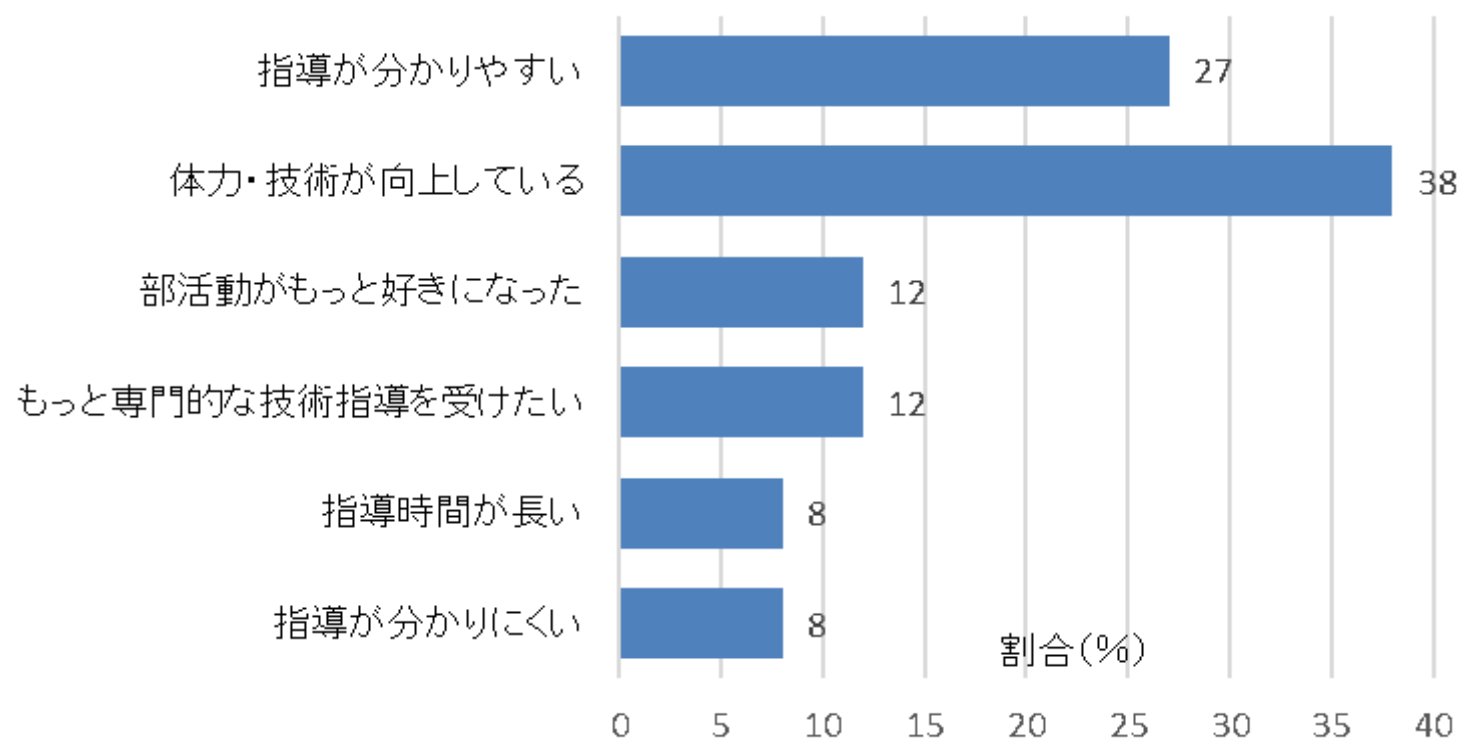
参考資料（アンケート結果）

【令和 6 年度 休日の地域クラブ活動に関するアンケート】

対象者：学校長、教職員、生徒（1・2年生全員）、保護者（1・2年生全員）

実施期間：令和7年1月31日（金）～2月13日（木）

地域クラブ活動に参加してどのように感じていますか。（生徒：複数選択可）



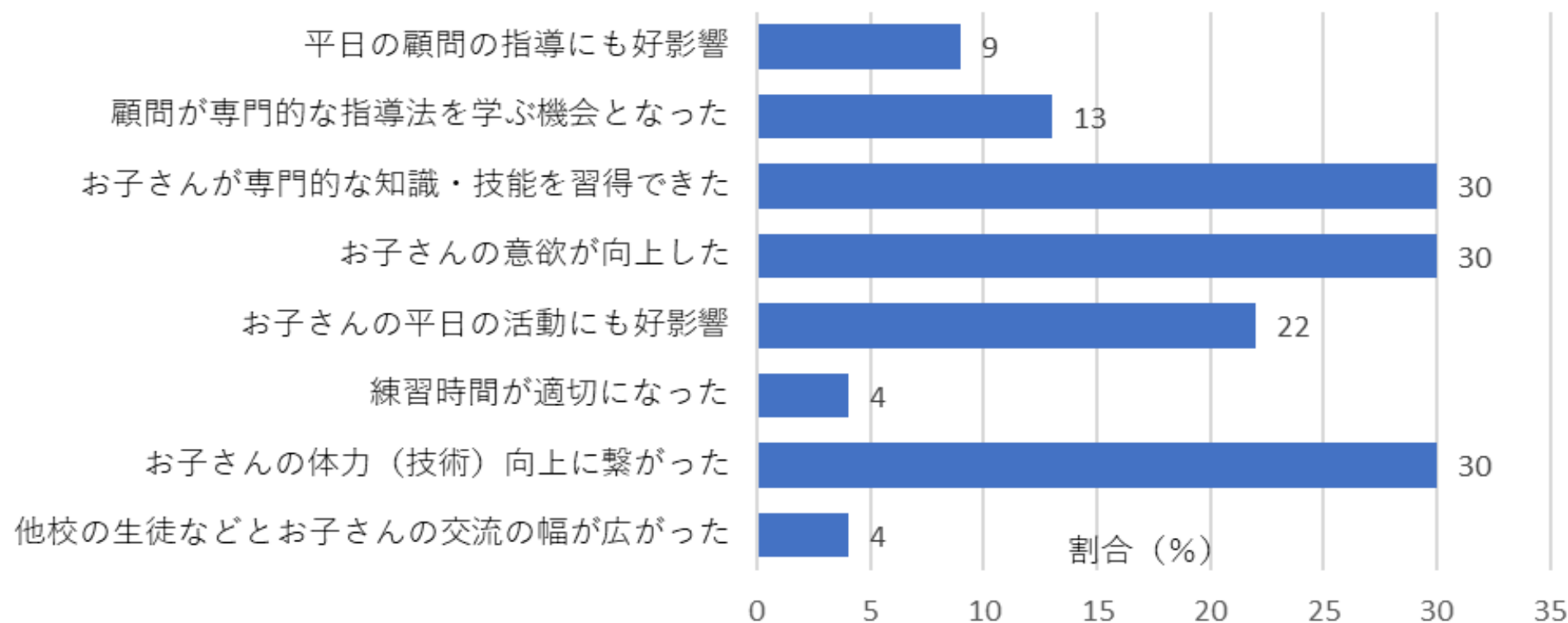
参考資料（アンケート結果）

【令和 6 年度 休日の地域クラブ活動に関するアンケート】

対象者：学校長、教職員、生徒（1・2年生全員）、保護者（1・2年生全員）

実施期間：令和7年1月31日（金）～2月13日（木）

休日の地域クラブ実証事業に参加してよかった点は何ですか。（保護者：複数選択可）



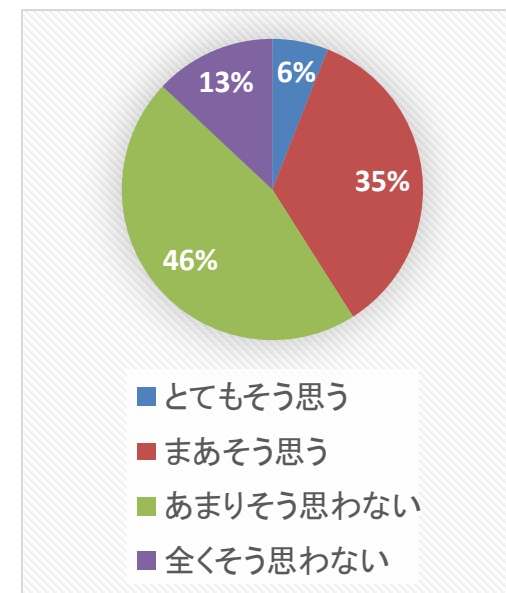
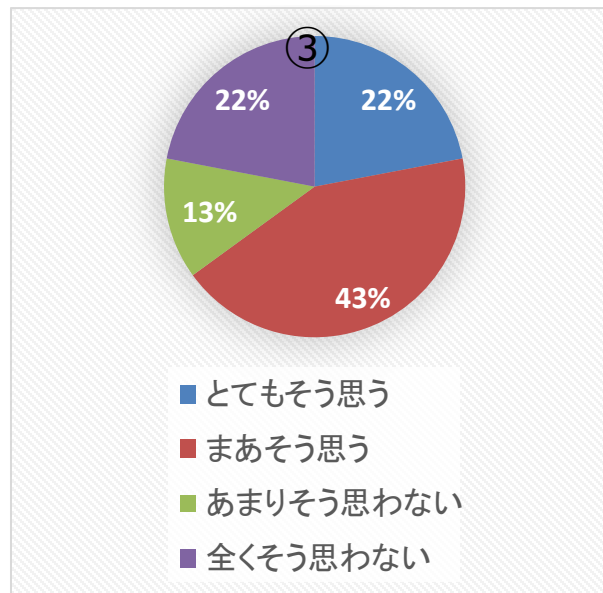
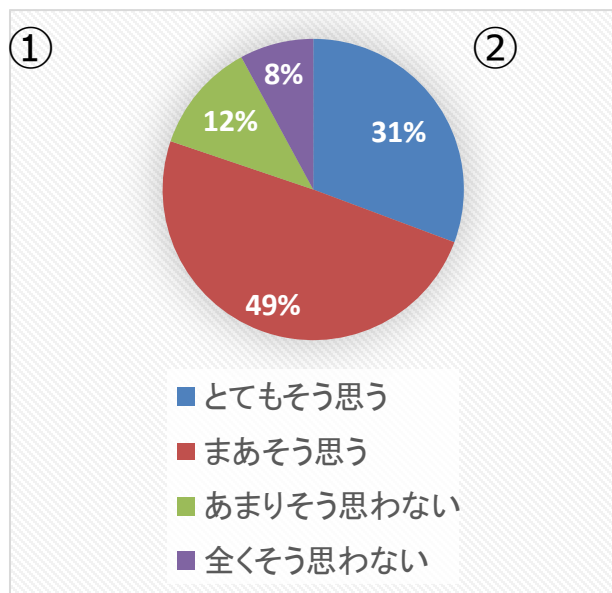
参考資料（アンケート結果）

【令和6年度 休日の地域クラブ活動に関するアンケート】

対象者：学校長、教職員、生徒（1・2年生全員）、保護者（1・2年生全員）

実施期間：令和7年1月31日（金）～2月13日（木）

- ① 次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと思いますか。（クラブ実施生徒）
- ② 次年度も休日の部活動は地域クラブ活動として実施してほしいですか（クラブ実施保護者）
- ③ 次年度、休日の部活動は地域クラブ活動として実施してほしいですか（クラブ未実施保護者）



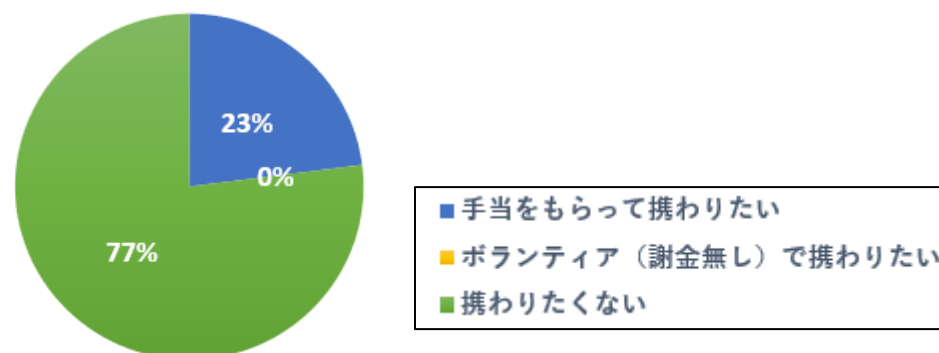
参考資料（アンケート結果）

【令和6年度 休日の地域クラブ活動に関するアンケート】

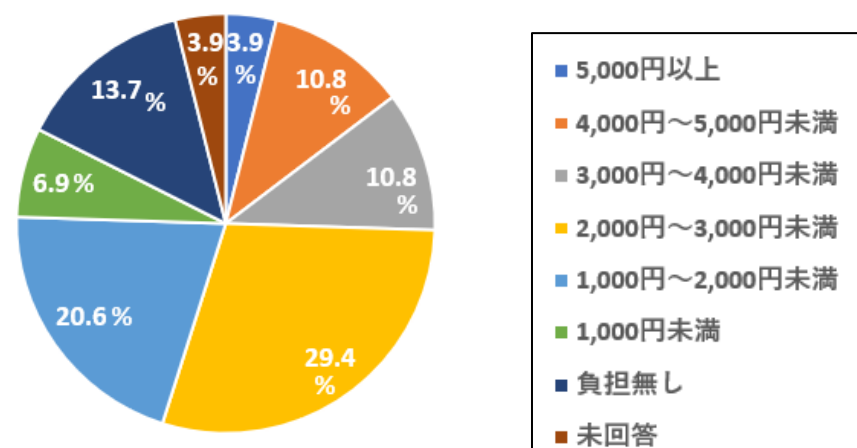
対象者：学校長、教職員、生徒（1・2年生全員）、保護者（1・2年生全員）

実施期間：令和7年1月31日（金）～2月13日（木）

①休日の部活動が地域に移行した
際に指導に携わりたいですか
（教職員）



②休日の部活動が地域移行する場合、
保護者の負担額（月額）はどの程度
が妥当だと考えますか
（保護者）



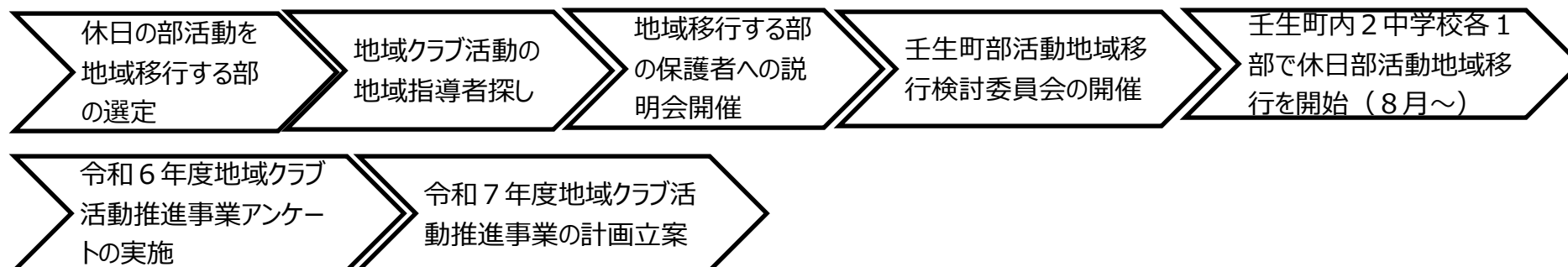
2.実証内容と成果④

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

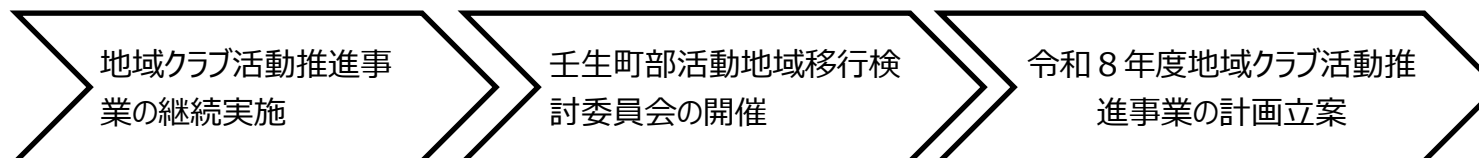
令和5年度



令和6年度

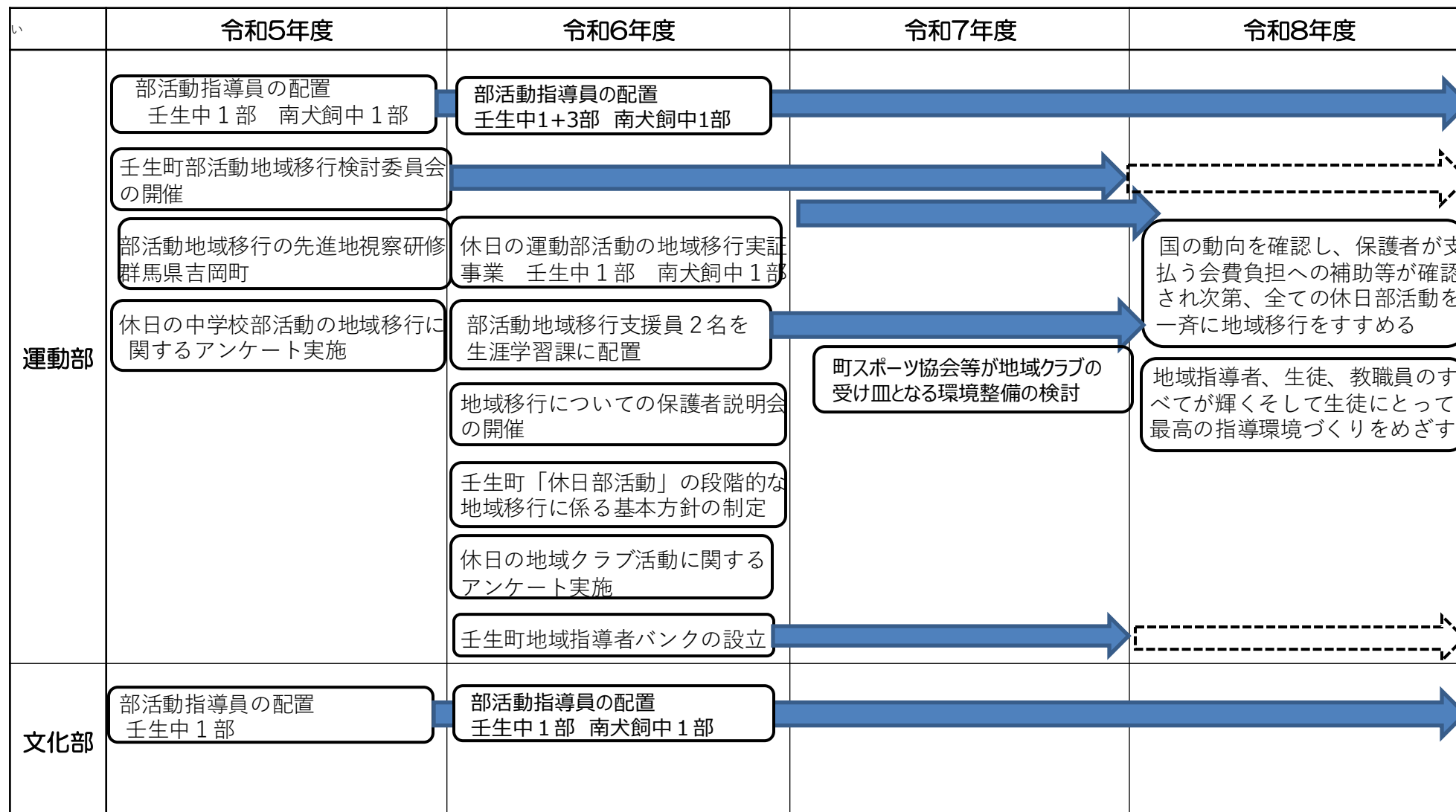


令和7年度



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

栃木県 野木町

自治体名： 栃木県野木町

担当課名： 教育委員会生涯学習課

電話番号： 0280-57-4187

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積30.27 km ²
人口	24,275 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	562 人
部活動数	35 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	制定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、野木町の2つの中学校の部活動総数は、運動部は31部、文化部は4部である。

近年生徒数は減少し、同時に教職員数も減少している。しかし、部活動数は現状を維持しており、部員不足のため単独でチームを編成できない部も存在する。また、競技経験のない教職員が指導せざるを得ない状況や休日を含めた指導を求めたりするなど教職員にとって大きな業務負担となっている。

そこで、本町では、「令和7年度までに町立中学校の休日の運動部活動を地域クラブに2つ以上、また、平日活動を含めた地域クラブ設立を2つ以上目指します。」（短期目標）

また、「令和10年度までに町立中学校の休日の運動・文化部活動の全てを地域クラブに移行し平日活動を含めた地域クラブの設立を3つ以上目指します。」（長期目標）という活動目標を設定した。

課題として、地域移行の受け皿としての運営団体の強化や指導者の確保があげられる。

具体的な課題は、

- ①受け皿としての運営実施主体
 - ②運営団体（総合型地域スポーツクラブ）
 - ③指導者の人材の確保
- の3点である。

野木町の部活動の現状や課題

（1）生徒数 町立中学校の全生徒数の推移

野木町の中学校の部活動を取り巻く状況は近年大きく変化してきています。本町の人口減少とともに、生徒数も減少傾向にあります。

中学校	令和3年度	令和6年度	令和12年度
野木中学校	340	292	282
野木第二中学校	309	270	262
合 計	649	562	544

野木町の中学校の部活動を取り巻く状況は近年大きく変化してきています。本町の人口減少とともに、生徒数も減少傾向にあります。

（2）令和6年度の野木町立中学校の部活動数（運動部）

中学校	男子の部活	女子の部活	計
野木中学校	10	9	19
野木第二中学校	6	6	12

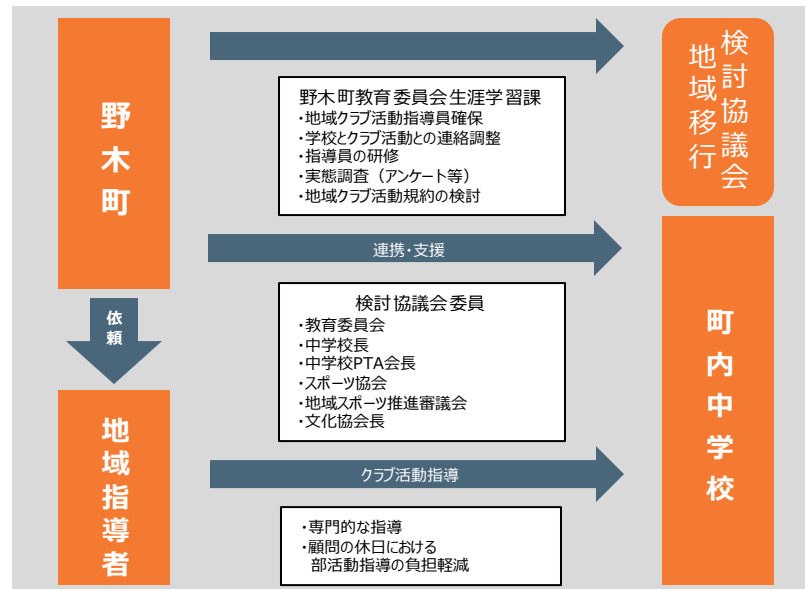
部活動加入率は約87%ですが、運動部の団体競技では、部員不足のため単独でチームを編成することができない部もあります。部員の少ない部活動同士が合同編成チームで大会等に出場や部員不足などにより募集停止となっていく部活動も考えられ、今後、減少傾向にあると考えられます。また、自分の通う学校に、希望する部活動がないという状況があります。

（部活動未加入率は、令和6年度は13%）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 休日の部活動の地域クラブ活動移行の計画立案・実施
- ・ 野木学校部活動の地域移行検討協議会事務局（開催・運営）
- ・ 地域クラブ活動運営団体・指導員の確保
- ・ クラブ活動指導員の研修
- ・ 学校との連携及び連絡調整（施設・生徒指導・保護者対応）
- ・ クラブ活動指導員バンクの設営

◎首長部局

- ・ 学校部活動の地域移行の進捗状況の確認と議会への報告

年間の事業スケジュール

令和6年4月	実証事業部活動検討 （ソフトテニス・水泳）
	ハンドボール部の地域移行 設立に向けた取り組み
令和6年6月	町内小中学校訪問・研修
令和6年7月	野木町学校部活動の 地域移行協議会
令和6年9月	野木町学校部活動の 地域移行協議会
令和6年10月	ハンドボールクラブ 活動開始
令和6年11月	野木町学校部活動移行説明会
令和7年1月	ハンドボールクラブ実証事業の 実践・検証
令和7年2月	実証事業部活動検討部の 打ち合わせ会の実施 （ソフトテニス・剣道）
令和7年2月	実証事業検証・報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	6人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施 時間帯	参加者 （学年別）	実施 期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ハンドボール クラブ	市町村 運営型	ハンドボール	月 20回／ 週 5回	平日 17:00~18:30 休日 09:00~12:00	男子13人 1年生：8人 2年生：5人 女子9人 1年生：5人 2年生：4人	R6.9~	野木 中学校 新体育館	2人	6人 （内、兼務0人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし。

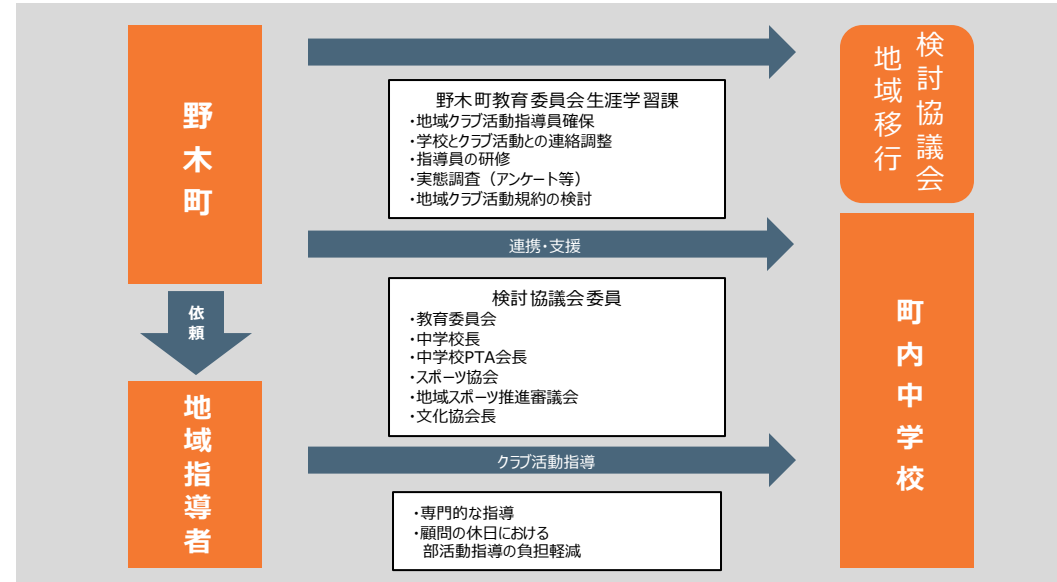
2.実証内容と成果

主な取組例

ハンドボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール
運営団体名	市町村運営型
期間と日数	令和6年10月1日～3月31日 月20回程度
指導者の主な属性	野木町ハンドボール協会役員 元高等学校教諭
活動場所	野木中学校新体育館
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,200円/年 (64歳までは1,850円、65歳以上は1,200円)

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名
役割：活動における管理者として学校、保護者との連携を行う
- 指導者 2名
役割：活動における主任者として生徒への指導を行う
- 運営補助者 4名
役割：活動において主任指導者の補助として指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 参加者管理、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、にICTを活用。
- 小中学校の教職員対象に理解促進のため説明会を実施。
- 今年度2回野木町学校部活動の地域移行協議会を実施。

取組の成果

- ・ 町が事務局となり地域とのかかわりが強い生涯学習課に雇用された職員がコーディネーターを兼ねることで、学校やスポーツ協会諸団体の担当者との連絡調整が円滑に行われた。また、メールやホームページを活用して連絡体制等が整備が確立した。
- ・ ホームページを活用したことで、指導者の人材確保ができた。
- ・ 運営団体と相談体制が構築され、運営していく上で必要な準備が整い、保護者を含めた運営体制構築がスムーズに整った。
- ・ 検討協議会を実施し、それまでの取り組みの確認と今後の進め方の確認ができた。
- ・ 町内の7つの小中学校の教職員対象に周知の場を持った結果、活発な意見交換が行われた。
- ・ 今年度は、7月と9月に野木町学校部活動検討委員会を実施し、様々な関係者から今までの野木町の部活動地域移行の現状と今後の実施に向けて様々なご意見や助言をいただき、町としての方向性が決定することができた。その結果、11月に町の文化会館にて各学校の保護者や関係者総数200名を超える説明会を実施した。栃木県教育委員会担当者2名をお招きし、国や県の動向そして、町の取り組みや今後の方針を説明した結果、多数の質問が出るなど活発な実施となり、理解が深まった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・ 1か月ごとにクラブを視察し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・ 協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努める
- ・ 学校、参加者、指導者への連絡調整及び各競技団体への協力依頼

今後の課題と対応方針

事務局とコーディネーターを兼ねているため、直接諸団体や学校等と連絡調整は比較的スムーズにできるが、協議会で、報告や提案などに時間を取られ、委員の中には、現状がわからず基本的な質問も見られた。今後円滑に議論が進みより良い地域移行の実施につなげられるよう取り組み方法を構築していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
- 人材の発掘については、県の人材バンクの活用、または、町独自の人材バンクを設置し、これらを活用したうえで、指導者を確保する。 - 町のホームページで人材を確保するために募集を行った。 - 指導者研修会の実施。	30名 人材バンクの年齢構成 10代 0名 20代 0名 30代 0名 40代 7名 50代 7名 60代 11名 70代以上 5名	指導者の過半数は、60代以上の年齢で、職業も第一線を退いた方が多い。 人材バンクは、町のホームページ等で募集した方。元気の出るスポーツクラブに登録した方である。	サッカー、剣道、バスケットボール、ハンドボール、柔道、軽スポーツ、ピラティス、ヨガピラティス、ヨーガ、太極拳、ソフトバレーボール、陸上競技である。	日本サッカー協会、日本スポーツ協会日本ミニバスケットボール協会、日本ハンドボール協会、全日本柔道連盟、生涯学習開発財団、FTPJAPAN、日本エアロビック連盟等

取組の成果

- 町の指導者バンクに登録した人数は、30名いる。多くのものは、町のスポーツ協会に所属する指導者と従来からある元気の出るスポーツクラブのぎに所属登録している指導者の資格を持った方である。また、町のホームページを見て指導者としてやってみたいという申し出があり、指導者の確保につながった。
- 地域クラブスタートに当たって指導者への研修について、事務局が講師を務め資料を独自に作成するなど工夫し実施した。
- 地域クラブのさらなる向上を目指し、保護者・生徒へのアンケートを実施し、クラブ運営の改善につなげる取り組みを実施した。また、指導者から実施した取り組みから成果と課題を聞き取り、また、保護者・生徒のアンケートの結果より今後の取り組みにつなげるように努めた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【実施クラブへの研修】

- 対象：ハンドボールクラブ
- 目的：クラブの効果的な取り組みとなるよう、また、適切な運営が図れるよう研修を実施することで、子どもたちの活動環境を充実させ期待する効果が得られるよう環境整備を図る。
- 工夫した点：町独自の資料を作成し、理解を深めた。

【野木町スポーツ協会理事対象研修】

- 対象：野木町スポーツ協会理事
- 目的：指導者確保に向けて、新たなクラブ化実施に向けた理解促進
- 工夫した点：根本的に地域移行を理解できるよう、繰り返し丁寧な説明をし、各協会の状況の把握・調査を依頼した。

指導者研修の参加実績

- 開催日：10月10日、1月8日
- 開催回数：2回
- 参加人数：ハンドボール3人、理事28人

ハンドボールクラブ指導者全員に共通理解していただくよう依頼した。

また、野木町スポーツ協会理事にリーダーシップをとっていただくよう依頼した。

受講者の声

○ハンドボールクラブ

指導にあたって、中体連の規約を確認できてよかった。地域クラブの参加については、生徒や保護者のみならず中体連関係者にとっても少しでも早く理解をいただけるような組織や運営を心掛けていきたいと感じた。

○野木町スポーツ協会

11月に実施された、野木町立中学校部活動地域移行説明会と今回の研修で、今まで分からなかった点や勘違いしていた点がわかり良かった。また、自分でプレーはするが指導ができるかどうか疑問だという声もある。今後協力できないか協会として総会時など皆で何ができるか検討していきたいと思った。休日なら可能かもしれない。

今後の課題と対応方針

地域クラブ化に向けては、どの協会も各自でスポーツに取り組むことはできるが、指導となると難しいという声が多く聞かれた。県の中でも小さな町なので指導者資格を持っている人は限られてくるので、指導者を探すことが困難であることが再確認できた。しかしながら地域の子供は地域で育てるということを強調することで、何とか協力できたらと前向きな声も聞かれた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

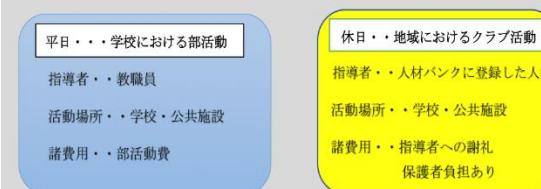
○学校と連携して進めていくために、小中学校校長会において、本町の取り組みや今後の取り組みを町内小中学校全校において説明会を実施することに対して協力をお願いし、小中学校の教職員に向けて説明会を実施した。

取組の成果

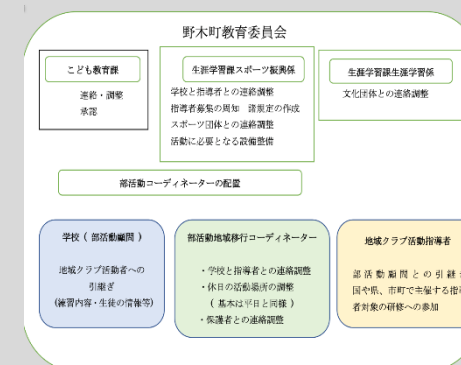
○小中学校校長会において、学校の協力を求めることで、児童・生徒や保護者と直接接する教職員全員が共通理解のもとに対応できるよう周知する機会を得た。

○各小中学校の教職員を対象に、説明会を実施した結果、各校とも活発に意見交換が出来た。また、移行に当たっては、町の今後の方向性、移行する部活動の決定について、「地域クラブ活動指導者の確保について」、「移行のスケジュールについて」の理解促進のための資料を配布し、共通認識のもと共通理解が図れた。中には、うわさが先行しどう対応したらよいか困ったという声もあり、今後の地域移行の環境づくりにつながる機会となった。

【 令和6年度における移行のイメージ 】



【 令和6年度における移行のイメージ 】



小中学校訪問・説明実績

- ・日数 7日
- ・参加者数 207人
- ・実施時期 6月、7月

小中学校の教職員の声

先生方から積極的な質問があり、的確に回答いただいたり説明をいただいたので、今後保護者の方から質問された場合でも、自信をもって先生方が回答できるのでありがたかった。

今後の課題と対応方針

○各小中学校の教職員を対象にした、説明会の実施は、直接目の前の児童・生徒にかかわる問題であり、中学校の教職員においては、直接働き方改革につながることで、学校現場が本気になって係ることができるように今後も連携強化を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○1週間の練習日は、平日4日、休日1日計5日の地域クラブ活動として実施。昨年3月23日に第1回目の野木中・野木第二中学校ハンドボール部の保護者対象に保護者会を実施した。ハンドボールクラブ設立に向けたアンケートの実施を経て7月7日に第2回目の保護者会を実施した。8月に設立総会を実施した。野木町初の地域移行クラブ活動として10月より活動をスタートした。

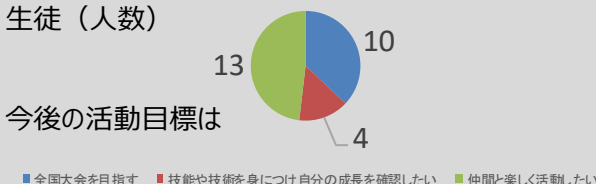
○持続可能な活動になるための現状確認と改善につなげるためのアンケートの実施。

活動の詳細

参加人数	22人	指導者数	2人
属性	野木町ハンドボール協会役員、野木町ハンドボール協会指導員		
具体的な内容	・地域クラブ活動実施に向けた2回の保護者会の実施(3月23日、7月7日) ・地域クラブ活動実施に向けた設立総会の実施(8月) ・10月より野木町初の地域移行クラブ活動として活動開始 ・持続可能にするためのアンケートの実施		
生徒の声	● ループシュートの技術など指導により以前より技能が向上した。 ● 練習や指導内容が変わり技能の向上が図られた。 ● 専門的で丁寧な指導が受けられて良かった。 ● チームワークがよかった。また、勝敗にこだわらずに楽しめた。		
関係者の声	● 人数が増えたことで、練習内容はチーム練習が増えた。 ● 特に男子の意欲向上が見られ、技術の習得が多くみられた。 ● スキルだけでなく意欲(向上心)が増した。特に内面の向上が著しい。 ● 2中学校の学校行事の関係で全体練習ができない期間があり、チーム力の向上のためにも学校行事を合わせていただけるとありがたい。		
運営経費	● 指導者謝金 2名		

生徒(人数)

今後の活動目標は



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○地域クラブ活動の実施までの手順の確立

ハンドボールの地域移行クラブ活動までの経緯から、スムーズに学校部活動から地域クラブ活動へ移行するためには、

- ①受け入れ態勢が整った移行先(受け入れ先)を確認。
- ②学校への連絡と学校としての受け入れの可否の確認。
- ③地域移行クラブ実施に向けての保護者へのアンケートの実施。
- ④保護者説明会の実施。

以上の流れを経て、地域移行クラブの設置が進んでいくことが確認され、確立できた。

今後の課題と対応方針

学校部活動の地域移行クラブ化については、周知方法や的確で正確な情報が多くの人に伝達していないと的確でないわさなどの情報が広まり、不安をあおってしまうということが今年度のハンドボールクラブを設置することで、明らかになってきた。町当局と学校現場が協力して、正しい情報が伝わらないと協力していただけないことが分かったので、今年度を実施してきた

【部活動地域移行に係るアンケート】

※ 移行内容につきましては、生徒・保護者等のご意見をお聞かせください。ご意見を参考にし、生徒たちにとって最良なものを決定していきます。

※ 次の問いにお答えください。(○及びご意見をお書きください。)

学校部活動を地域のクラブ、競技団体などに移行する改革のことを部活動の地域移行(地域クラブ活動)といいます。地域の受け入れ可能な団体へ移行を進めていく予定です。

1. 部活動が「地域クラブ活動」に移行した場合、他の学校の生徒と一緒に活動することとなります。また、より専門的な知識や技能を学べることとなります。また、子どもの活動環境(平日放課後の活動・活動時間)が変わることや保護者の経済的な負担が増える等デメリットも出てきます。地域クラブ活動に参加しますか？(1つ選択)

- (1) 参加する ()
(2) まだ決めていない ()
(3) 参加しない(転部する・他の活動・未定) ()

2. 地域クラブ活動の指導についてどんなことを期待していますか。(複数選択可)

- (1) 体力・技術の向上 ()
(2) チームワーク・協調性等 ()
(3) 大会等での好成績 ()
(4) 運動習慣の形成 ()
(5) 楽しく活動する ()
(6) 自信をつける ()
(7) 社会性を身につける ()
(8) 自立心をつける ()

3. 中学校において、教職員は多岐にわたる教育活動に従事しており、また、生徒指導等の対応も求められております。一方で教職員数は、減少している状況から、ハンドボール部の地域移行を進めております。部活動の地域クラブ活動への移行時期について、いつからがよいですか？(1つ選択)

- (1) 令和7年4月から ()
(2) 令和6年9月から ()
(3) どちらでもよい ()
(4) その他 ()

4. 地域クラブ活動では、小中の指導者の連携が重要とされています。指導者の指導体制についてお聞かせください。

(複数選択)

- (1) 小学校の時の指導者にも指導してほしい。 ()
(2) メインの指導者に加えて補助的に指導できる人を入れてほしい。 ()
(3) 専門性を持った指導者ならだれでもよい。 ()
(4) その他。 ()

5. 地域移行の段階的な形として、野木中・野木第二中学校の合同を(町で一つにまとめる)にして、土・日を地域移行にする。方法もあります。このことについてお考えをお聞かせください。

(1) 2つの学校とも9月以降も部活動を存続し、新人戦は、合同チームとして参加する。(野木中・野木第二中合同チーム：平日はそれぞれで練習する。)(平日は顧問の先生と部活動指導員が指導する。)()

(2) 新人より人数の不足によりチームの組み立てなくなる野木第二中のことを考え、野木第二中は廃部とし、野木中と合同チームとして活動する。(拠点校部活動：平日も野木中にて練習する(指導者は先生と部活動指導員)()

- (3) どちらでもよい ()
(4) その他 ()

自由意見

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

野木町教育委員会生涯学習課
スポーツ振興係
担当：松井、松村、菊地、赤坂
Tel：57-4187
Fax：57-4914

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本町の中学校は2校である。今年度地域移行できた部活動は、ハンドボールのみである。活動場所は、野木中学校の新体育館を利用している。それまで新体育館を利用していた部はハンドボール部のみであったことと、

2年前に実施されたとちぎ国体で使用した体育館であり、立派な会場を独占できる状況である。また、野木第二中の生徒は日ごろグラウンドでの練習がほとんどであったので、とても良い環境でできることを喜んでいる。

取組の成果

参加した中学生に聞き取りをしたところ、野木第二中の生徒は、きれいで大きな体育館を常に使えるのでとても良い。ありがたいことと捉えている。また、日ごろグラウンドでの練習であったので、汚れることもなく思い切り練習に打ち込めるため、練習の成果が上がるのが速いと思うと答えている。また、2つの中学校の生徒が集まることで、人数も増え練習内容も充実してきている。さらに、より専門的な技術指導もあり、個人としてもチームとしてもレベルアップしていると感じている。



今後の課題と対応方針

平日は、放課後の練習や夜間の練習になるが、野木第二中の生徒は、野木中学校まで自転車での移動もしくは、家から保護者の車での移動があり、負担は避けられないことが課題としてあげられる。交通事故

防止など安全面の配慮が必要であることと、保護者の送り迎えなど家庭の負担が増えたことが一番の課題である。練習終了後の安全確認ができるような仕組みの構築が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○野木町地域クラブ活動に関する認定要項の作成

部活動の受け皿として、野木町地域クラブに認定し、支援することにより、生涯スポーツ・生涯学習社会の実現を図ることを目的として認定要綱を作成し実施した。

取組の成果

地域クラブ活動に関する認定要綱を作成することで、11の認定要件を設定した。その中の、①活動計画書、②地域クラブ認定要件確認書、③規則または会則、④会員名簿(総会資料)、⑤前各号に掲げるものの他、教育委員会が特に必要と認める書類の以上5つの申請提出をもって、野木町地域クラブとして認定し、適正な運営と支援を可能にした。結果としてクラブ運営の基盤を確立することができた。

		1月分	OWLS活動報告
日付	曜日	活動時間	活動練習内容
1	水	休み	年賀
2	木	休み	年賀
3	金	休み	年賀
4	土	休み	年賀
5	日	9:00～12:00	野木町駅伝試走(コース全域)
6	月	9:00～12:00	①基礎ストレッチ ②DF練習(フットワーク) ③シュート練習 ④2対2攻防
7	火	9:00～12:00	①基礎ストレッチ ②DF練習(フットワーク) ③サイドシュート練習、2対2攻防
8	水	休み	
9	木	19:00～21:00	①基礎ストレッチ ②ポジションシュート練習 ③2対2攻防 ④速攻1対1練習

指導者の属性や配置の工夫

○指導者の属性

野木町スポーツ協会ハンドボール協会役員、協会指導員

○配置の工夫

設立総会にて、会長はじめ会計・監事・事務員・指導員11名の中に適切な運営を図るために保護者を5名役員として迎えた。

その他持続可能な組織にするための工夫

○SNSを利用した、教育委員会事務局との連携の確立

○設立総会資料の中身

- ・指導方針・会員名簿の作成
- ・会則・役員名簿
- ・事業計画
- ・収支予算書案
- ・収支決算書案

今後の課題と対応方針

役員の中に保護者を入れたことで、運営が協会スタッフのみにならず保護者に協力を得ることで透明性を確保し、連携したクラブ経営ができた。一方で、指導者と保護者間の線引きが難しいという課題も出てきた。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○国や県の休日における部活動を段階的に地域に移行するという方針に従い、野木町として令和5年度から令和7年度までの3年間で休日の部活動を実施可能な部活動から地域に移行することを進めてきた。

○令和4年度には、地域移行に係るアンケートを実施することから始め、令和5年度は地域移行検討協議会を設置し、2回の協議会を開催した。また、受け入れ団体の一つとして、町のスポーツ協会理事会を開催し、受け入れ団体に協力を要請した。その結果、ハンドボール協会より指導者を含め、実施可能であると回答があり、複数の打ち合わせ会を経て保護者説明会を年度内に実施した。令和6年度になり、保護者へのアンケートを実施し、野木町初の地域移行クラブ活動の第1号として10月より平日を含めて活動を始めた。

○その他として、①学校現場への周知のための説明会の実施 ②町のHPや広報誌への指導員の募集 ③クラブの認定制度の設置 ④指導者バンクの設置 ⑤実施クラブを含め指導者研修の実施 ⑥町として地域移行説明会の実施など進めることができた。

●成果の評価

令和4年度に実施した教職員・保護者・児童生徒へのアンケートより、地域移行する上で状況を把握したうえで今年度の実行可能な取り組みをしてきた。

- ①ハンドボール保護者会を2回実施し、地域移行実施までの流れが確立した。
- ②保護者などにうわさが先行していたので、小中学校の現場の教職員に対し現状と今後の方針を説明会を実施し周知できた。
- ③町の指導者バンクを設置、HPや広報誌を含め指導者の募集が拡大した。
- ④町の支援を含め勝利至上主義でない持続可能な運営ができる認定制度を確立した。
- ⑤地域移行実施クラブへの研修会の実施及び各組織団体対象の研修会を実施した。
- ⑥保護者を含め町関係団体向けの説明会を実施した。

それぞれの取り組みを実施して、町と地域で連携して一歩ずつ進めていきたい。

●今後に向けて

野木町は栃木県の中で一番小さな町である。スポーツを指導する人数が限られているので、指導者を確保・発掘することが困難である。しかし、保護者を含めた地域住民全体として地域の子供は地域で育てる。という地域の誰もが当事者意識をもって町づくりの観点から取り組んでいけるよう多くの人に関心持っていただけるよう勧めていく必要があると考える。

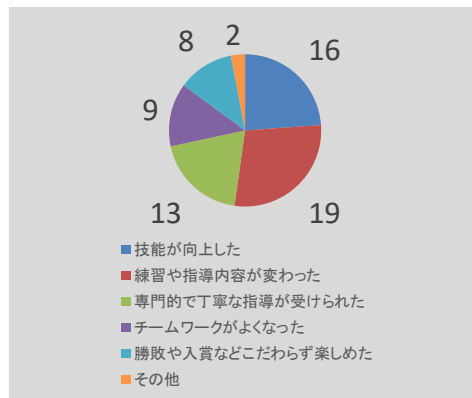
また、スポーツ協会理事会の研修会において、現時点で各協会に実態調査をお願いしている。その結果をもとに今後は、可能な限り休日の部活動移行を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

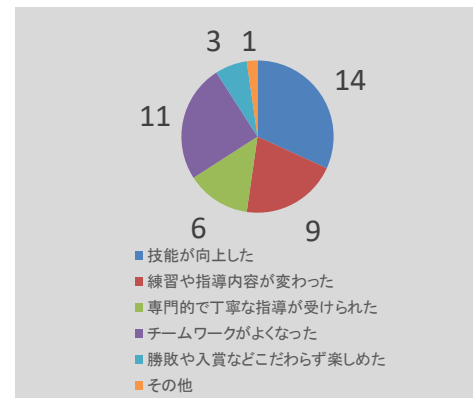
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果(人数)

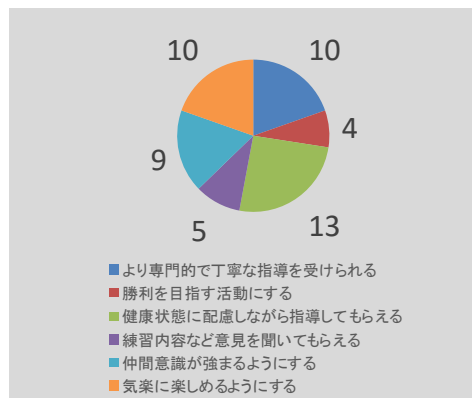
Q.クラブ活動になり、活動を通してよかったと思うことは何ですか（生徒）



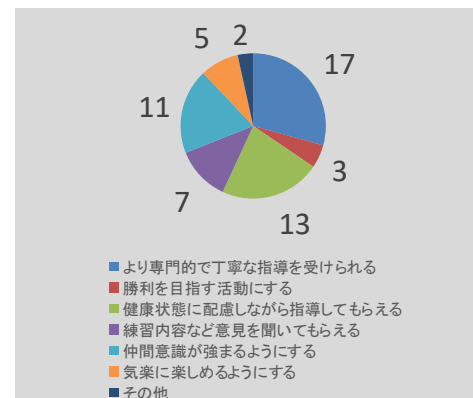
Q.クラブ活動になり、活動を通してよかったと思うことは、何ですか（保護者）



Q.今後、より満足する活動にするためにはどんなことが必要ですか（生徒）



Q.今後、より満足する活動にするためにはどんなことが必要ですか（保護者）



●参加者の声

中学1年生

他の中学校の人と一緒に練習することで、友達になれた。また、楽しく活動ができるようになりよかった。

中学2年生

以前出来なかったことが丁寧な指導のおかげでできるようになったので、とても良かったし、意欲が増してきた。

保護者

指導者の皆様には忙しい中熱心にご指導いただきありがとうございます。人数が増えたことでよりチーム練習が多くできるようになり、生徒たちも意欲が向上し、同時に技能の向上がみられたのはよかった。

指導者(聞き取り調査より)

中学校からハンドボールを始めた生徒もやる気が増し、意欲の向上とともに技能の向上が速く指導していて面白い。チームの人数が増えたことで個人練習よりチーム練習が増え、生徒の意欲が向上し技能の向上が顕著である。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【練習の様子】



【練習の様子】



【大会の様子】



【ミーティングの様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討開始
アンケートの実施

小中学校教職員
小6 中1・中2の
保護者・児童生徒

令和5年

協議会の設置
協議会の実施
指導者の選定
保護者会の実施

生徒・保護者への
説明

令和6年

地域クラブ活動の
開始

令和7年

地域クラブ活動の
拡大

学校部活動の地域移行に係る アンケートの実施

●対象者

小中学校教職員、小6・中1・中2
の保護者及び児童生徒

●実施にあたって生じた課題

教職員の67%は部活動の指導をできればしたいと考えている。また、
地域に移行した場合指導者としてあ
たりたいかには67%が指導に当たる
気持ちはないと回答している。従って、
地域の指導者の確保が課題である。

●実施内容、工夫した点 等

アンケートの結果をホームページで公
表し、多くの方の目に触れることで、
関心を持っていただけるようにした。

野木町「中学校地域移行検討 協議会の設置」及び実施

●実施内容

第1回 7月4日

- ・ 部活動地域移行の方向性
休日(土日祝)を可能な部のみ
地域に移行する。等

第2回 8月23日

- ・ 部活動指導員関係
- ・ 地域クラブ活動関係

●実施にあたって生じた課題

周知による理解と協力の必要性

●実施内容、工夫した点 等

各委員の今後につなげるようそれぞ
れの立場から意見を吸い上げるよう
配慮した。

●ハンドボールクラブ

令和6年10月から活動開始

●経過

- ・ 7月の保護者会、8月の設立総会を経て地域クラブ第1号
として発足し、10月より活動開始。
- ・ 週5日、月20日間の実施。

●実施にあたって生じた課題

- ・ 2名の指導員と保護者を含む役員を配置し活動を始めた
が、練習・試合・大会時の対応や保護者と指導者間で
の連絡・調整に課題が見られた。

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 指導計画等SNSを利用し速やかに連携できた。練習計
画の作成及び実績報告等提出により、スムーズな活動に
つながった。また、指導者研修をスタート時に町独自に実
施した。また、保護者・生徒にアンケートを実施し現状把
握でき、改善につなげた。

18